

令和3年度 さぎなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらの新年度スタートとなった。各保育室の喚起を十分に行いカーテンや備品、玩具、絵本一冊ずつに至るまで入念に消毒。子どもたちの健康や安全を守るため、職員全員で感染予防対策を実施した。室内では、換気を十分に行い、保護者に対しては、保育室への立ち入りをご遠慮してもらい、送迎の際は体温チェックとマスクの着用をご協力いただくことができた。
- ・室内で身体を動かすあそびを工夫することができた。毎朝、園内放送による体操やダンスでは、年齢に応じて選曲したり、新曲を取り入れたり充実させることができた。
- ・運動あそびでは、平均台の高さを変え傾斜をつけるなど工夫をし、ボールあそびでは大きさの異なるボールやバランスボール等を使ってあそび、年長クラスではドッチボールを取り入れた。リトミックでは、回を重ねるごとに身体を動かす時間を延ばし、曲に合わせて楽しみながらあそぶことができた。園庭ではフラフープや竹馬、鬼ごっこ、ケンパあそび、砂場あそびを楽しんだ。また、散歩を多く取り入れ、散歩コースの見直しと散歩距離を少しずつ延ばしていった。よって、室内あそびや戸外活動を取り入れながら、子どもたちの体力向上や脚力強化に繋げることができた。
- ・園外活動では、福祉バスを利用した活動が困難であったため、室内で楽しめる夏祭り行事を企画し、子どもたちと一緒にお神輿を作ったり、職員が玩具（もぐらたたき、魚釣り、お菓子のつかみ取りゲーム、かき氷等）を作ったりとお祭りの雰囲気を楽しむことができた。
- ・保育者は、日々の保育業務に加え、感染予防対策に努めながら、子どもの発達に寄り添った保育を計画し子どもの健康と安全に配慮した保育実践をすることができた。
- ・園外研修はすべてオンライン研修となり、多くの職員が参加する事ができ学びの機会を得られた。研修で学んだ知識を保育現場へ活かすことができ、保育者の知識や技術の向上に努めることができた。
- ・園内研修では、日々の保育を振り返り、保育や行事の開催方法等を見直す機会が多く持てたことが保育の質の向上に繋がった。

《運動会》

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもたちのみの参加となったが、競技等で子どもたちの様子を撮影し、登降園時に保護者の方にご覧いただけるように玄関前で視聴できるようにした。また、希望者にはDVDを配布する配慮も行った。

《生活発表会》

新型コロナウイルス感染拡大防止を十分に考慮しながら開催する。参加人数制限や入れ替え制、マスクの着用、体温チェック、手指消毒等、保護者にご理解ご協力頂いた。また、会場内は、座席間の距離をとり、換気や消毒等に留意し、開催することができた。

《畑の活動》

今年度は地域のボランティアの方が参加したことで、園庭菜園に力を入れることができた。畑を整備し、ゴーヤー、きゅうり、人参、とうもろこし、オクラ、なす、白菜、じゃがいもと例年よりも野菜の種類が増えた。発育不良でクッキングするまでには至らなかったが、初めて収穫する人参やとうもろこし、白菜に子どもたちの歓声や嬉しそうな表情もみられた。また、さつま芋の植え付けでは、次年度の収穫と芋ほり会に期待を持つ姿もみられた。

《田植え活動》

田植えは、親子行事のひとつであったが、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、子どもたちと保育者、地域のボランティアの方での活動となった。

もみの選別では、選別の際に使用する海水を汲みに行き、稲の植え、田んぼの整備、田植え、鳥よけネット張り、かかしの設置、稲刈り、脱穀と一連の流れを体験することができた。

また、田んぼの泥土の感触や水の中の生き物にも触れることができ、田植え活動を通して様々なことを体験し楽しむことができた。

●今年度の気づき

- ・限られた環境の中で子どもたちの生活とあそびを保障するため、職員一丸となってより良い方法を模索し工夫しながら、日々の保育実践に繋げることの大切さを学ぶことができた。
- ・園内、園外行事を例年通りに実施することは困難であったが、おかれた環境の中で、様々な工夫したり、考えたりしながら、保護者のご理解ご協力を得て開催する方法をみつけ、子どもたちと一緒に楽しみながら参加できたことはよかったと思う。

●次年度の目標

- ・園全体の方向性を定め、各クラス間はもちろんのこと園全体での情報共有をしっかりと行い保育計画・保育実践へとつなげていく。
- ・報告・連絡・相談、確認に加えて、保育の基本である、観察・記録・工夫・計画・行動をしっかりと実践する。
- ・各ミドルリーダーの役割をさらに確立し日々の保育に活かしていく。
- ・食育リーダーを中心に食育研修に参加し、そこで学んだことを他の保育者と共有しながら、食育活動を継続する。また、保育者は、食育活動の記録を残し、掲示物等で、園での食育の取り組みについての情報を、保護者に対して発信する継続していく。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、日々の保育業務に加え、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、保育室や園庭、備品や玩具等の消毒、換気、環境調整など、おかれた環境の中で日々考え、努力しながら、行事のあり方や開催方法などを模索し考え保育実践に繋げることができたと思う。

また、報告・連絡・相談、確認、情報共有の重要性や、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組み保育へ活かすことの大切さや園内外の研修にて学び、実践に活かすことの重要性を実感した。

今後も保育実践において、保育計画に基づき、生活やあそび、食育活動、戸外活動を通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋げていきたい。